

令和3(2021)年度 事業計画書

令和3年5月

大阪国際学園

令和3年度 事業計画

1. 大阪国際大学・大阪国際大学短期大学部

(1) 「教学改革の推進」

「グランドデザイン答申」や認証評価機関の評価指針等を注視し、引き続き、FD活動を通じた授業改善や科目の精選、履修指導や制度・体制の強化、授業形態の見直しなど教育環境の整備に取り組む。

重点取り組みとしては、

- ①令和4年度より大学において導入される「新共通教育課程」の内容を確定するとともに、主管する「基幹教育機構」の運営体制強化を図る。
- ②「IT人材育成」の要請に応え、学生のPC必携化を進めるとともに、対応できる学内環境の整備、教育課程での積極的な運用を推進する。
- ③「学修成果可視化プロジェクト」における検討を進め、「学修ポートフォリオ」や「学修行動調査・記録」等による教職員、学生双方が学修成果を確認できるシステムを構築し、令和4年度からの展開を図る。

(2) 「募集活動の強化」

大学については、入学定員の安定確保と入学者の学力レベルを保持するため、志願者数を入学定員の3倍以上を目標とし、現状評価からワンランク上のポジション評価の獲得を目指す。短期大学部については、短大を取り巻く環境は大変厳しい状況となっているものの、受験生へ早期のアプローチを図ることにより、入学定員の確保を目指す。

志願者数を安定させるために、引き続き、オープンキャンパスや総合型選抜(AO)説明会等の入試イベント・活動を充実させ、出願・手続き率のアップを目指す。

高大連携事業をさらに推し進め、教育協定校からの入学者数増を目指す。

新型コロナウイルス感染症対策として実施してきた「オンライン」を使った種々の対応を強化し、入試に不安のある受験生等に対し、積極的に対応していく。

(3) 「国際交流活動の推進」

コロナ禍のため、昨年に引き続き海外への渡航が制限され、交換留学、海外研修さらに、留学生の来日に影響が及ぶことが予測されるが、①～⑤の交流活動等を推進するとともに、令和3年度後期以降、海外への学生派遣、学内での国際交流活動の再開を期待したい。

①海外研修の代替研修の実施(オンライン語学留学、特別講座)。

②日本文化等の国内外へのオンデマンド配信。

③海外協定校学生との協働研究、オンライン交流会。

④令和3年度末までに海外協定校110校の開拓(令和3年1月現在107校)。

⑤留学生の募集は、コロナ禍で日本語学校の留学生数が減少しているという厳しい状況ではあるが、入学者(編入学含む)数の5%を留学生で確保。

(4) 「地域交流活動の推進」

連携協定先・地域企業と学部・学科を繋ぐ活動を継続強化し、修学・体験機会の創出、拡大に取り組む。また「公開講座」「OIU・OIC キッズキャンパス」「AKV（関西空港駅ボランティア）」「地域防災啓発」の基本活動とボランティアバンク活動では、コロナ禍を踏まえた運営方法・内容へ転換を図り、地域における学園・大学・短大の存在価値を高めていく。

重点取り組みとしては、

- ①近隣3市と新たに枚方市・四條畷市を視野に入れ、重要政策や有力企業の事業活動と学部・学科の接点強化を図り、フィールドワークや連携機会拡大をめざす。
- ②地域住民との交流活動では、リモート環境や動画コンテンツを積極的に活用し、従来の対面活動の良さを残しつつ、新たな非対面の活動も推進していく。
- ③ボランティア活動では、AKVメンバーとJR 関西空港駅とのプロジェクト連携や小学生対象 SNS の使い方教室（大阪府警）、天の川わんぱく村（交野市後援）などを実施しており、貴重な体験となっている。今後も価値ある活動を提供・創出していく。

(5) 「課外教育活動の推進」

クラブ活動の特性を踏まえた新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、クラブ活動の再開・継続を図る。

更に、コロナ対応を図った上で、以下の①～④の活動を推進する。

- ①環境形成：枚方キャンパス売却及び新中高校舎建設による松下町校地人工芝グラウンド縮小に伴う代替地『四條畷市総合公園多目的グラウンド』を併せた施設の最大限の有効利用。
- ②地域貢献：近隣小学校に対するボランティア活動や自治体主催のスポーツイベントへのクラブ学生の積極的派遣。
- ③エンカレッジ：決起集会、リーダーズトレーニング、壮行会等の開催。
- ④UNIVAS 事業の活用：新たに大学スポーツ協会主催のオンラインを主としたクラブ学生、指導者対象の研修会やプログラム（リーダーズキャンプ、デュアルキャリアプログラム、組織マネジメント研修等）の推奨。

(6) 「キャリア教育と就職支援の強化」

キャリア教育科目については、大学での完全全学展開となり、個々の学生が自身のキャリアデザインについて思考を深める場となるよう、関係教員や基幹教育機構、キャリア教育部会との連携を深めながら推進する。

インターンシップについては、対面、遠隔の方法をとりながら、学生の課題形成力と解決力向上に向け着実に展開を図るとともに、新たな採用プロセスとなってきた短期の企業体験についても積極的な活用を促していく。

就職活動支援については、就職希望率の向上に努め、学生の就職に対する意識や意欲に合わせたグルーピングを行い、各グループの特性に合わせたきめ細かな支援策を迅速的確に展開する。併せて個別指導も徹底していく。

企業・団体とは、フレンドリー企業を中心に合同・個別の学内企業説明会を展開するとともに、採用活動のみならず学生の実践力養成に向け、キャリア教育と連動した産学連携講座の企画・実施を図り紐帯を継続して強めていく。

2. 大阪国際滝井高等学校

(1) 「令和3年度特別施策の具体的推進」

滝井高校最後の学年となる入学生を迎えた本年より、3ヶ年計画で展開する。様々な学びや気づきを与え、大きなルールチェンジを迎えるこれからの時代を生き抜くために必要な知識やスキルを身につける「ヒロインPJ」(①～⑤)と、学校行事を通して好奇心を刺激し、感性や行動力・協調性をみがく「キラキラPJ」(⑥～⑩)を推進。

- ① 著名人や卒業生等による特別授業「ヒロインセミナー」を毎月実施。
- ② 日本の伝統・文化、自然、地域産業、環境などをテーマとした通年での総合探究学習「ヒロインプログラム」を実施。(1年生)
～奈良県吉野町の全面的なバックアップを受け、吉野町を舞台に実施。
- ③ 留学生との交流など当初計画していた「国際交流」の取り組みが現状困難であるため、海外のイベント・風習を校内行事に取り入れた形での「異文化交流」を企画・実施。また、国際科では、希望者による「アトマイルプロジェクト」への参加を計画。
- ④ 予備校講師による放課後自習室管理(チューター制度)の導入。学習意欲の喚起と自習習慣の確立、また外部大学受験者層への学力向上支援につなげていく。
- ⑤ 各科・コースごとの実習・体験授業などのキャリア教育をより一層充実させる。
- ⑥ 普通科は異文化体験や自然体験、世界平和などをテーマとした、ハワイへの修学旅行を実施。国際科は語学研修を兼ね、カナダへの修学旅行を実施。(2年生)
- ⑦ 文化祭を2日間行事とし、内容の充実を図る。生徒の自立性を重んじ、生徒主導の企画運営としていく。
- ⑧ 「ノー制服デー」を実施。ヒロインセミナーのインプレッショントレーニングの回とリンクさせ、装いや印象、立ち居振る舞いなどを学ぶ。
- ⑨ 芸術鑑賞として、宝塚歌劇を鑑賞。
- ⑩ 部活動の充実。バレーボール部を筆頭として、フェンシング部、軽音楽部、ダンス部、吹奏楽部などの“全国レベル”クラブを中心に、昨年度新設したラクロス部や特徴的クラブであるサッカー部なども、より活動を活発化させる。

(2) 「ICT学習環境のより一層の充実」

コロナ禍の下、校内はもちろん、リモートでの学習環境整備も喫緊かつ重要な課題。昨年度より段階的に進めてきたが、今年度はこれを一層進展させる。

今年度の新入生には全員にiPadを制定品として購入してもらい、授業や行事、家庭学習や家庭との連絡などにも積極的に活用していくことで、ICT学習環境整備と関係者のリテラシー向上を図る。

- ① 学習支援ソフト(グーグル・フォー・エデュケーションやロイノート等)をより広い教科・科目で活用することで、新学習指導要領で求められている探究的な学びを促進する。そのために必要な教員向けの研修や勉強会も計画的かつ体系的に実施。
- ② 日々の学習や活動などを生徒自身によりクラウドに記録させ、自己の再発見や進路選択などの活動を充実させる。また、これを教員も共有することにより、

生徒理解を深めて的確な生徒指導に活用する。

- ③ 「総合的な探究の時間」のほか、様々な教科・科目において iPad を活用することにより、状況に応じたメディア（文字・音声・画像・動画）の選択や組み合わせによる表現能力を育成する。
- ④ 電子辞書アプリ（英和・和英、国語・古語）の活用の研究と実践（1年生）

(3) 「働き方改革の推進」

昨年度の“働き方改革 PT”の活動により、グループウェアの導入や会議時間の短縮、ペーパーレス化の推進、行事の精選など、一定の改善を見た。今年度もこの流れを汲み、旧態依然とした業務内容の見直しや、校内 ICT 環境の整備を進めることにより、一層の業務システム化を推し進めていく。

(4) 「新中高 募集活動の推進」

新中高の募集定員を確保すべく、募集活動方針、年間活動計画に則って、全教職員一丸となって、大和田中学・高校と力を合わせ募集活動に取り組んでいく。

3. 大阪国際大和田中学校・高等学校

(1) 「新校への円滑な移行のための積極的な募集活動」

令和4年4月に予定されている新校開校に向けて、新中高設立準備室、滝井高校の教職員と連携を図りながら、本校教職員が一丸となって新校の魅力を京阪沿線だけでなく、大阪市内や東大阪、北摂地域等、従来の通学区域だけではなく広範囲にわたって新校へ通学可能な地域の方々に伝えるべく、募集活動、PR 活動を積極的に推進していく。

(2) 「グローバル教育の充実」

グローバル社会で活躍できる基礎力として、コミュニケーションツールとしての英語力の育成が高まっている。中学校では、グローバルビレッジの取組みをさらに充実させるとともに、英語によるスピーチコンテスト等のレベルアップに取り組む。

高校においては英語で自分の意見や考えをプレゼンテーションできるようにする授業を継続し発展させるとともに、大学の留学生を招聘し、一日中、英語漬けの取組み（English day の実施）を行い、実際に英語を使ってコミュニケーションを図る機会を増やし、グローバルな視野の育成を図る。

実際に英語を使う場面として、これまでの交流先である姉妹校との相互訪問が現在はコロナ禍の影響でストップしているが、当面はオンラインや E-mail などでの交流などを進めてつながりを維持していきたい。

また、滝井高校との合同実施をしていたイギリスのケンブリッジ大学、アメリカの UCLA、ベトナムボランティア研修、オーストラリア語学研修なども社会情勢を見ながら再開し、新校での取組みにつなげたい。

(3) 「ココロの教育の充実」

これまで本校が取り組んできた、「ココロの学校」「ココロの奉仕」「ココロの深化」の取組みの成果をさらに発展させて、新校に受け継いでいく。

「ココロの学校」では、様々な分野で活躍している方々を講演者としてお招きし、

その生き様に触れることで、人間として大きく成長することを期待して、令和3年度も中学及び高校各学年単位でそれぞれ年2回程度実施する予定である。

「ココロの奉仕」については、令和2年度はコロナ禍の影響で、職場体験活動ができなくなったが、クラブ部員などの協力で校内やその周辺の清掃活動などに取り組んだ。令和3年度は、これまでの活動に加え、新校への移行を踏まえ、併設大学の協力を得ながら、地域に貢献できる活動をさらに広げていきたい。

「ココロの深化」については、中学2、3年生対象に、総合的な学習の時間の中で、これまでの華道、マジック、囲碁、書道、ダンス、PBL (Project-Based Learning)、美術、カメラに加え、新たにプログラミングを利用した学習に取り組み、STEAM教育にも力を入れる。この学習活動を通して、「思考力」、「判断力」、「表現力」や「創造力」の育成を図るとともに、今後ますます求められる「学ぶ力」の育成にも効果があるものと考えている。

(4) 「ICTを活用した授業の推進」

令和2年度整備されたICT環境を活用し、わかりやすい、効率的な授業への改善を図る。そのため、デジタル教科書等を活用しながら、中学生は一人一台のノート型PC (Chrome book) を、高校では学年ごとの共用のChrome bookを生徒たちが調べ学習等に活用し、本校にふさわしい探究型の授業の研究開発を行う。

(5) 「志を高めるための取組みの充実」

中学、高校ともにできるだけ早期に生徒自身に自分の将来を考えさせる取組みが必要である。そのために、大学と連携して大学訪問や大学教授、大学院生、あるいは研究者に、最新の研究成果などを講演して頂くなど、生徒に学びの刺激を与える取組みを行う。結果として、希望する大学への進学実績を伸ばしていくことをめざす。

(6) 「教員の指導力向上の取組みの充実」

来年の新校開校を迎えるにあたり、教員の指導力向上が急務である。ベテラン教員の高齢化に伴い、これから世代交代が進む中で、リーダーとなる中堅教員や若手教員の育成を組織的に取り組む必要がある。

そのための方策の一つとして、ピアサポート制度の導入を行う。中堅教員がグループのリーダー(メンター)となり、2~3名の若手教員の指導及び相談役となり、若手教員同士もお互いに協力し合いながら指導力の向上をめざす。

もう一つは、滝井高校と大和田中学・高校の教員間の交流である。同じ教科、同じ分掌、同じクラブ顧問など、様々な形で情報交換をしながら、新校に向けての準備を進めていく体制を築きたい。できれば、授業に関する合同研修会などを実施できればと考えている。

4. 幼保連携型認定こども園 大阪国際大和田幼稚園

(1) 「教育・保育の充実」

建学の精神や理念に沿って、認定こども園としての教育・保育方針「生きる力の基礎を育成」に向け、基礎となる力を培う幼児教育・幼児保育を実現する。

「こども園教育・保育要領」に基づく「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」に

ついて、幼児期において育てたい資質・能力の三本柱 ①知識及び技能の基礎、②思考力、判断力、表現力等の基礎 ③学び合う力、人間性等の三点を重要項目として位置づけた取組みを行う。また、園児が将来国際社会で活躍するために必要となる英語力・読書力などの基礎づくり、パソコンなどの ICT 機器に苦手意識がうまれないよう、幼児期から親しみをもたせる取組みを行う。

(2) 「安全対策」

新型コロナウイルス感染症対策やインフルエンザ等の予防対策については、学園危機管理委員会の方針の下、こども園教職員が一体となり、保護者との連携を密にあらゆる手段を取り感染予防に努める。また、万が一のコロナウイルス感染に当たっては学園及び保健所の指導に基づき適切に対応する。

園の活動中においては、安全を第一に、教育・保育内容や施設の使い方等を点検し、充実した園舎を存分に活用した教育・保育が展開できるよう取り組んでいく。

(3) 「幼稚園教育と保育所機能の保育教諭同士の連携」

0歳から5歳児までが活動する園舎では、園児の生活の流れや活動内容・行事内容についても違ってくるため、幼稚園教育の教諭と保育所機能の教諭とが密に連携が取れるよう職員会議等を通じ情報交換を行い、全ての園児・教員が安全・安心と充実した園生活を送ることができるように取り組む。また、全園児が係わりを持つ異年齢の活動を展開しながら、互いに認め合うことのできる人間関係を構築することができるようにする。

(4) 「情報の発信と園児募集」

幼稚園としての長い歴史で培った質の高い幼児教育や0～2歳の3号園児と幼稚園児の交流を通じ幼稚園教育へのなだらかな移行等、本園ならではの特徴ある活動を情報発信し、京阪沿線の「認定こども園」のトップランナーとして、その知名度の向上を図り、園児募集につなげていく。また、最新の園舎と学園グループのこども園としてのメリット（大学施設の利用、大学・短大・高校・中学の教員・学生との交流・支援など）をホームページ等を通じて積極的にPRする。さらに近隣地域の小・中学校や自治会等との交流・連携を深め、地域の子育てステーションとしての存在を高めていく。合わせて、社会保障の関係もあり働く保護者の増加により保育機能を求める声が多く、これに対応し、安定的な園児確保を図るため受け入れ定員の見直しを検討する。

(5) 「短期大学部 幼児保育学科等の学園グループとの連携」

併設の短期大学部、滝井高校と本園の三者で締結した、「保育・教育・研究連携協定」に基づき、更に交流を深め効果的な教育連携に取り組む。また、大和田中学・高校との交流を更に深め活動内容の幅を広げていく。

こども園においては、保育者の専門性の向上が不可欠であり、保育教諭が大学の教員等から直接指導を受けることにより、保育教諭の資質向上につなげていく。

また、保育現場や大学教育にとって保育者養成の重要性が増している中、短期大学の幼児保育学科との連携を強化するとともに、短大とこども園との協働により保育者養成を充実させていく。

以上